る場合もあることは言うまでもない．なお，参考のため今後の気候に関する内外の気候専門家の見解を第1表に示す．

3. 気候変動対策の必要性

第2表にみられるように，気候専門家の間では，異常気象の社会に及ぼす影響は今後増大するとの意見が圧倒的に多い．また，前章に述べたように，年々の天候は引き続き変動が大きいと予測されていることでもあり，対策をとる必要性は今後ますます大きくなるであろう．

現在，気候問題が注目されている理由の一つに，大気中二酸化炭素濃度の増加など，人間活動の影響で気候が変わるのではないかとの懸念が挙げられる．この問題は1979年の世界気候会議でもその重要性が指摘され，1982年第34回 WMO 執行委員会では二酸化炭素にかかわる観測・研究を推進するよう決議された．

このため，気象庁では大気中の二酸化炭素濃度を測定する体制を作ると共に，気候への影響については日本学術会議国際協力事業団 WCRP 分科会とも協力し，大気大循環モデルの精密化をはかって研究を進めている．また，気候変動の社会に及ぼす影響調査，気候と人間活動の相互作用など基本的な問題への対策を含め，気象庁は1981年6月に「気候変動対策基本計画」を策定し，これに基づいた「気象庁気候研究基本計画」を1982年4月に策定するなどして，気候変動対策を進めている．

4. おわりに

報告書は300ページほどにも及ぶ大部のものであり，以上に紹介したのはほんの一部分である．特に，異常気象と気候変動の原因についての解説には全くふれることができなかった．興味をもたれた方は，是非報告書自体を参照していただきたい．報告書は，「異常気象レポート '84」と題され大蔵省印刷局から一部1,300円で発行されている．

第16回乱流シンポジウム講演募集

下記の通り第16回乱流シンポジウムを開催しますので，お知らせします．

主　催：日本流体力学会

共　催：日本航空宇宙学会，日本機械学会，土木学会，日本物理学会，日本気象学会，日本海洋学会，流れの可視化学会，日本風工学会，日本農業気象学会，日本建築学会（交渉中）

開催日：昭和59年7月26日（木），27日（金），28日(土)

会　場：中央大学理工学部（春日校舎）
〒112 東京都文京区春日 1-13-27
TEL. 03-813-4171

申込方法：1題目につきB5の用紙1枚に，(1) 講演題目，(2) 氏名・所属・会員資格（連名の場合は講演者に○印），(3) 簡単な要旨，(4) スライド・オーバーヘッドプロジェクター等の使用の希望，(5) 連絡先を記入し，封書で下記宛に送って下さい．

申込締切：昭和59年5月7日（月）必着

参加登録費：1,000円

印刷物：シンポジウム終了後に講演者には発表した論文の原稿を提出していただき，後刷論文集を作ります．予約を希望される方は，代金（送料を含めて予約頒価2,000円）を参加登録費とともに前納して下さい．郵送による予約も受け付けます．予約受付の期限は昭和59年7月28日（土）で，それ以降は頒価3,000円（会員の場合2,500円）となります．

懇親会：27日（金）の講演終了後，懇親会を予定しています．

連絡先：講演申込および郵送による予約受付，その他本シンポジウムに関するお問い合わせは下記にお願いいたします．
〒223 横浜市港北区日吉 4-1-1 慶応大学内
日本流体力学会乱流シンポジウム係
TEL. 044-63-1111 内線 299

第16回乱流シンポジウム実行委員：委員長　林　泰造（中央大・理工），大路通雄（電通大），小橋安次郎（道工大），佐藤　浩（東大・境界研），日野幹雄（東工大・工），松井辰弥（名城大・理工），松信八十男（慶大・物理）